

奈良県田原本町の『田原本町道路ストック包括民間委託業務』に採択！ ～全国初となる ECI 方式と複数年包括発注を併せた橋梁の予防保全型維持管理と 舗装・道路付属物の計画的維持管理を包括民間委託で推進～

株式会社オリエンタルコンサルタンツ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：野崎秀則）は、奈良県田原本町が実施する 5 箇年（令和 6 年度[2024 年度]～令和 10 年度[2028 年度]）の「田原本町道路ストック包括民間委託業務」に採択されました。

当社は、田原本町が管理する道路ストックの安全かつ効率的・効果的な維持管理の実践を目的に、対象橋梁 354 橋の定期点検、ECI 方式（田原本町仕様）^{*1}による橋梁補修設計 29 橋に加えて、道路舗装点検（延長：268.5 km）、道路附属物点検（照明柱：55 基、標識柱：357 基、カーブミラー：1576 基）を行い、長寿命化修繕計画（個別施設計画）策定の支援を実施して参ります。

また、業務の実施にあたっては、DX 技術を活用した橋梁の長寿命化計画策定と舗装・道路付属物の計画的維持管理を支援するシステムを導入し、業務の高度化、効率化に向けた検討を実施して参ります。

【業務実施内容】

当社は田原本町の「田原本町道路ストック包括民間委託業務」において、下記の取り組みを実施し、効果的・効率的な道路ストックの維持管理を推進して参ります。

●DX（ICT 技術）を活用した道路ストック維持管理の新たな仕組みを構築

- ・日常点検、定期点検に DX（ICT 技術）を有効活用し、効率的・効果的な現地情報の取得・整理、健全性把握を行います。特に舗装、道路附属物については、ドラレコ映像による AI 診断等の合理的な定期点検を実施し、日常点検（ICT 技術 SOCOCA^{*2}）を活用）と併せた健全性を精度よく把握した上で、個別施設計画の策定に反映させます。
- ・橋梁の長寿命化計画、舗装・道路附属物の個別施設計画については、インフラマネジメント支援システム IMS（橋梁版、舗装版、道路附属物版）を導入し、アドバイザーとして計画策定を支援します。
- ・ECI 方式の活用による三者協議会、ウェアラブルカメラの活用や技術研修会の開催等を通じて発注者、地元施工業者との三者連携をより強化しながら、更なる品質向上を図ります。

●道路ストック維持管理の全体最適化を図るアセットマネジメントの実施

道路利用者の目線から交通事故発生個所や通学路等における各施設の安全性を把握し、エリアとしての優先順位を踏まえて対処していく等、道路機能としての全体最適を図ります。

●「田原本町 DX 推進計画（令和 4 年 8 月）」に準じた情報のデジタル化を推進

本町全体の DX 推進計画と歩調を合わせながら、全ての関連情報をデジタル化することから始め、DX（ICT 技術）の定着に実効性と持続性のある整備を行います。（当社がアドバイザーとして関与し、庁内でのシステムの定着に寄与していきます。）

【田原本町道路ストック包括民間委託業務】

包括発注期間		2～3年	← 5箇年(本業務) →					(5箇年の予定)			
対象	業務項目	R2～R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
橋 梁	①定期点検	363橋		278橋	48橋	9橋	19橋	9橋	●	●
	②長寿命化修繕計画 (アドバイザーとして支援)	●	年度毎に更新(システム活用)				年度毎に更新(システム活用)				
	③補修設計	●		8橋	7橋	7橋	7橋	●	●	●
	④補修工事 (ECI方式による支援)	●		(8橋)	(7橋)	(7橋)	(7橋)	●	●	●
舗 装	⑤定期点検		●					●			
	⑥個別施設計画		●					●			
道路附属物	⑦定期点検		●	----->				次回点検はR16年度の予定			
	⑧個別施設計画		●								

青字および●：本業務にて実施する項目、橋梁数

【関連情報】

※1)：基礎自治体向けの ECI 方式（田原本町仕様）に関する橋梁包括発注の制度構築
第7回インフラメンテナンス大賞 国土交通省優秀賞の詳細についてはこちら

https://www.oriconsul.com/news/post_files/240403_kogyo01.pdf

※2)：能登半島地震にて支援活動等で活用した ICT 技術（SOCOCA）についてはこちら

https://www.oriconsul.com/news/post_files/240306_tsushin01.pdf

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
TEL: 03-6311-7551 FAX: 03-6311-8011
URL: <https://www.oriconsul.com/>
統括本部 伊藤、丸山、門司

体験型研修宿泊施設「そらすな」 グッドデザイン賞 2024 年度受賞

株式会社オリエンタルコンサルタンツ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：野崎 秀則）は、福岡県行橋市に事業主として整備した体験型研修宿泊施設「そらすな」において、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する 2024 年度の「グッドデザイン賞」を受賞しました。

■体験型研修宿泊施設「そらすな」について

本施設は、株式会社オリエンタルコンサルタンツが指定管理者として運営管理している長井浜公園内に、回遊性向上や交流促進を目的に、地域活性化の拠点となる体験型研修宿泊施設「そらすな」を事業主として（自己投資により）整備しました(2023年11月開業)。

「そらすな」は、客室の海側を覆う巨大な木製の階段により長井浜の海、砂浜と客室を繋ぎ、開放的、かつプライバシーを確保した空間が特徴です。客室は全室オーシャンビューを臨むことができ、自然に調和したシンプルなカラーリングデザインを基本としています。また、オーシャンビューバス、サウナ、暖炉、愛犬ステイ等の客室タイプがあり、その他、ジャグジーや BAR ルーム、各種研修等、様々なお客様ニーズに対応できる施設です。さらに、レストラン「Solasuna Dining」はランチ営業を行い、宿泊者以外のお客様も利用でき、行橋や長井浜の地域のお野菜やお米を中心に使用して、心も身体も喜ぶお料理を提供しています。

今後、「長井浜公園」や「そらすな」がお客様や地域の方々に愛される施設として、さらに質の高い施設の運営管理・サービスを提供し、長井地区及び行橋市の滞在人口や交流人口が増大するよう、地域の活性化に取り組んで参ります。

■グッドデザイン賞とは

1957年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されています。受賞のシンボルである「Gマーク」は優れたデザインの象徴として広く親しまれています。

<http://www.g-mark.org/>



■建物概要

事業者	株式会社オリエンタルコンサルタンツ		
設計者	Axonometric 株式会社		
施工者	株式会社志道工務店		
所在地	福岡県行橋市長井 136-1 長井浜公園		
敷地面積	11,477.31 m ² (街区公園面積)		
建築面積	459.50 m ²		
延床面積	853.40 m ²		
構造・階数	鉄骨造 2階建て		
用途	宿泊、飲食、会議室		
竣工	2023年11月	動画で分かりやすくご紹介	
ホームページ	https://nagaihama-resort.com/solasuna/		

■デザインの方向性

- ①公園と建築の境界がなくなり溶け合ったような空間デザイン
 - ②敷地は地方の小さな都市公園
 - ③衰退する地方都市の未来を、小さな公園から変えていく
 - ④多様なテラスが公園と建築をつなぐ
- ※詳細は別紙参照

<本資料に関するお問合せ先>

株式会社オリエンタルコンサルタンツ
TEL:03-6311-7551 FAX:03-6311-8011
URL: <https://www.oriconsul.com/>
統括本部 伊藤、丸山、門司

□受賞対象名：ホテル そらすな

□事業主体名：株式会社オリエンタルコンサルタンツ

□概要

浜辺に隣接した街区公園内に建つ宿泊施設。民間が提起する地域戦略の一端を担う。官民連携が進まない地方都市において、この建築が立地する公園の指定管理者が自ら投資し、住民や民間が主役となって経済社会活動を営むためのプラットフォームとして計画した。市内外から広く人を呼び、全国へ波及する取り組みとなることを目指す。

□デザインのポイント

1. 小さな都市公園を民間による経済活動の場として活用することで、官民が連携して地方都市の未来をつくる。
2. 地方都市の地域課題を解決するための「稼ぐ公共」を実現する空間デザイン。
3. 地域の環境資源や人的資源を面的に連携させ、地域活性化の拠点となる体験型研修宿泊施設。

□プロデューサー：株式会社オリエンタルコンサルタンツ 地域経営推進事業部 事業部長 川本卓史

□デザイナー：axonometric 株式会社 佐々木慧

□グッドデザイン賞審査員による評価コメント

都市部以外の小規模都市公園で官民連携を活用した好事例である。海辺の都市公園の中だからこそ、アクセスは海側からのみというドラマチックな平面計画を可能にしている。公園の外構デッキが、そのままシームレスに階段状に屋根まで上がっていく建築デザインは、あたかも公園が建築を包み込んでいるかのようで、それがかえって「この建築がここにある」ことの蓋然性を高めているように感じられる。自己主張を抑えながら海と公園と建築の一体性を高める主張を持つデザインは、今後の、特に小規模な都市公園における建築デザインのあり方に一石を投じており、グッドデザインと評価する。





そらすな Beach Side Resort Hotel

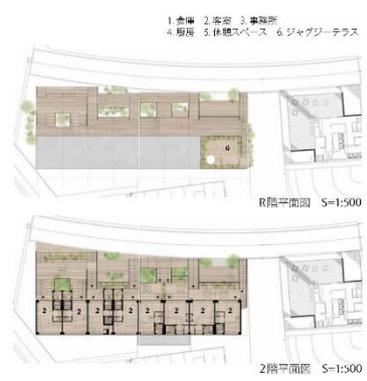
1 公園と建築の境界がなくなり 溶け合ったような空間デザイン

それは具体的にどのようなものか？クライアントと共に、ハード/ソフト両面から検討を深めた。そうして生まれたのが、太陽が昇る美しい海に向かい合い、途切れない水平線を建築の階層に取り込んだ大きな階段のようなイメージ。



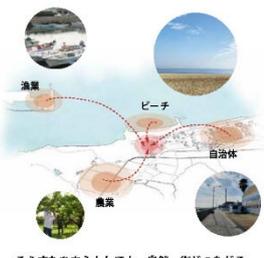
2 敷地は地方の小さな都市公園

福岡の北東部、東に緑やかな海を有する行橋市長井浜浜。元々は漁村で、その後美しい海の景観を活かして旅館が立ち並んでいたが、時が流れ人気のない土地となっていた。そこに近年、クライアントによって近年ビーチスポーツ・マリリアクティビティが盛んな海水浴場とコンパクトな海浜公園が整備され、活気を取り戻しつつある。



3 衰退する地方都市の未来を、 小さな公園から変えていく

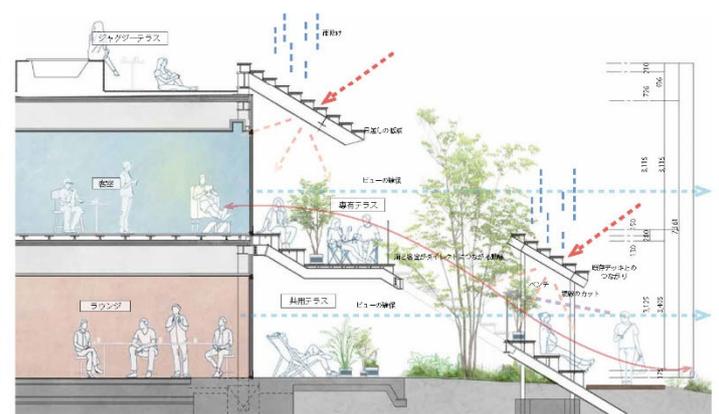
地方都市が抱える課題は、公園を変えることで解決できるはずだ。民間が主導して官民連携し、緑の公共/緑の公園の理念によってそれを実現する。小さな都市公園でそれを実践できれば、他の同じ問題を抱える地方都市も変えていくことができる。そのような思いで、クライアントは本計画地である長井浜公園の指定管理者となり、その後、地域活性化の拠点として公園内に宿泊施設を建てることを決めた。地域の人々が集まり、ビーチ・漁業・農業など地域にある環境資源を連携させる視点となること。その土地にある豊かな自然を学び体験できること。そのために自然に開かれ、公園と一体的に利用できること。このような、人・自然・街を繋げるためのプラットフォームとなる場所が求められた。衰退する地方都市の未来を小さな公園から変えていく。その見本となるため、ソフト・ハード共に様々なチャレンジと地域社会へのメッセージを詰め込んだプロジェクトである。



公園の延長としてできた大きな階段は、客室と海をダイレクトに繋ぎ、海に向かう多様な居場所をつくる。

4 多様なテラスが公園と建築をつなぐ

階段状のテラスは、客室と公園/海を最短距離で繋ぐ動線であり、海に向かう観音堂となる。ゲストはビーチから直接自分の客室へ入り、客室からはビーチ・海・空のビューが楽しめる。自然の恵みを最大限に楽しむことができる。公園から連続した階段が多層に重なり合って多様な居場所が生まれ、公園を使う人、遠くから訪れた人、地元の人たちが気軽に利用しコミュニティを形成することができるような、開かれた場所になっている。人々がその土地の自然と触れ合い、集まり、街を元気にしていく。その象徴となる場所に育っていくことを願っている。



■建物概要	設計者	主な外資性上
開発名称	soarasuna	慶信 シート株式会社 外建 メース
所在地	福岡県行橋市長井浜136-1	主な内資性上
用途	観光旅行宿泊施設	株式会社社会建設
開業予定	株式会社エリクソンコンサルティング	福岡市
		完成予定
		2021年12月~2023年2月
		2023年3月
		2023年2月~2023年11月
		建築費
		459.0万円、元外資費
		553.0万円

階段の踊り場でBBQをしたり、海へ向かう大きなベンチとなったり、多様な屋外空間が生まれる。

多気町×明和町デマンドタクシー交通広域連携プロジェクトの実施

株式会社オリエンタルコンサルタンツ(所在地:東京都渋谷区、代表取締役社長:野崎秀則)は、「地域公共交通共創・MaaS実証プロジェクト(国土交通省)」に採択された、「多気町×明和町デマンド交通広域連携プロジェクト」に参画しています。

この度、多気町と明和町の両町における医療・商業集積地域や交通結節点といった広域生活圏内での移動を両町におけるデマンド交通「でん多(多気町)」・「チョイソコめいひめ(明和町)」の連携の実証事業として、多気町が明和町と同一のAIデマンド交通システムを導入することで、広域連携の交通サービスを提供します。なお、複数自治体間での同一のAIデマンド交通システムの連携による運行は、三重県内で初の試みとなります。

本事業では、公共交通での移動に頼らざるを得ない65歳以上の高齢者・障がい者を利用対象者とし、両町民の日常生活における自治体間及び広域生活圏内の移動を確保しつつ、医療・商業施設等との連携による相互利用やデジタル地域通貨「美村PAY」の活用により、両町民の外出機会の促進につなげ、地域の活性化を促します。

令和6年10月25日には中継ポイントである明和町内のデューポイント DC モール金剛坂店において、出発式が執り行われました。

当社は、実証事業の企画準備や効果分析を行い、本事業の実装に向けて取り組んでまいります。



デマンド交通の車両
(左から チョイソコめいひめ、でん多)



多気町長、明和町長及び関係者によるテープカット
(左から)・三重トヨタ自動車(株) 社長 竹林 憲明 様
・明和町議会 議長 奥山 幸洋 様
・明和町長 下村 由美子 様
・多気町長 久保 行央 様
・多気町議会 議長 志村 和浩 様
・三重近鉄タクシー(株) 取締役 支配人 江並 史朗 様
・(株)オリエンタルコンサルタンツ 執行役員
交通運輸事業部長 泉 典宏



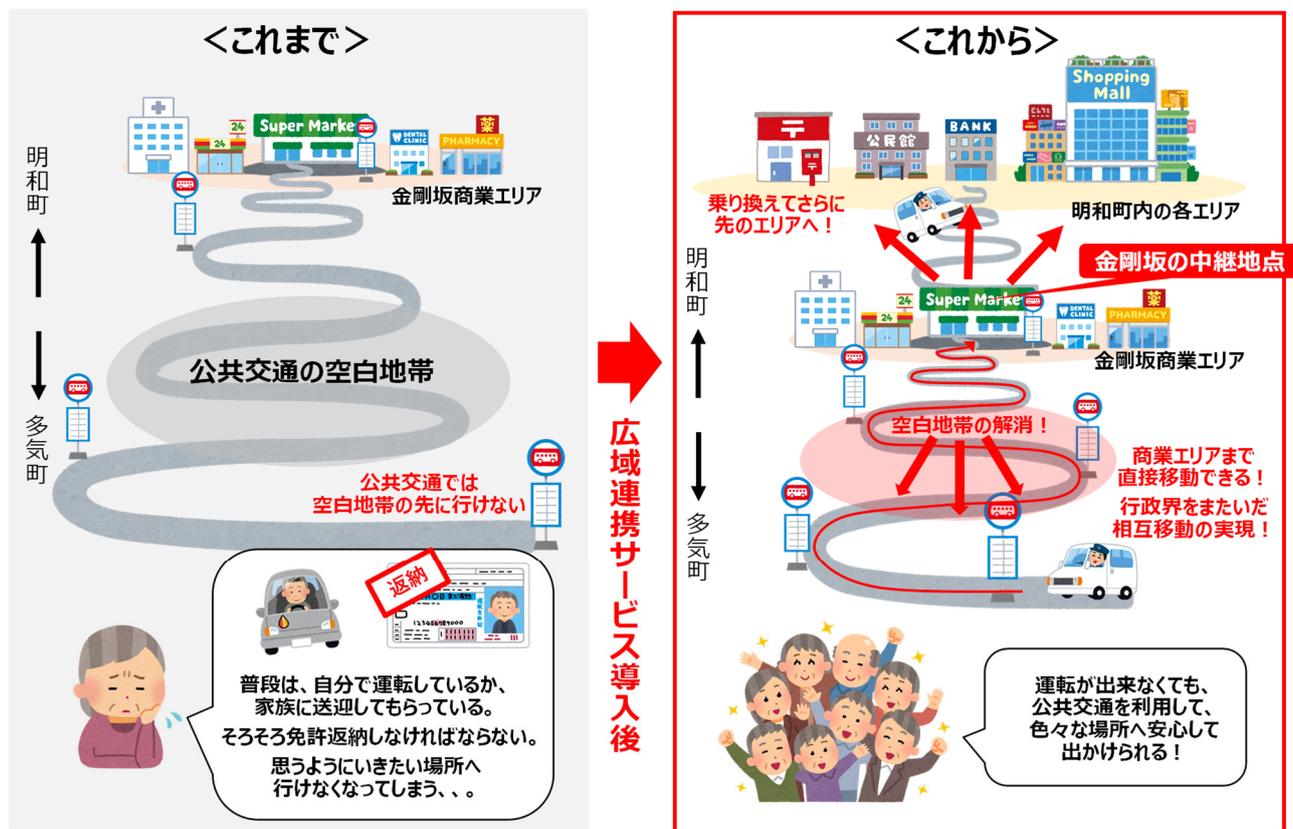
でん多(多気町のデマンド交通)に
乗車する下村明和町長



チョイソコめいひめ(明和町のデマンド交通)に
乗車する久保多気町長(右)

【実証事業の概要】

行政・公共交通事業者・商業施設等の連携・協働により、両町の広域生活圏内の移動を双方のデマンド交通の連携により可能とすべく、同一の AI デマンド交通システムを導入し、広域連携の交通サービスを提供します。



期間	令和6年10月25日（金）～令和7年1月18日（土）（予定）
運行日時	月～土曜日 8:30～17:00 ※多気町内から中継地点は、全日（日曜・祝日・年末年始含め）利用可能
対象者	65歳以上の方、身体障がい者手帳保持者、運転経歴証明書所持者（免許返納者） ※同伴者も乗車可能（4人まで乗車可）
料金	1人1回1地域・町につき300円 ※デジタル地域通貨「美村PAY」で支払い可能
利用方法	乗車希望の1週間前～当日の乗車希望時間帯の1時間前までに 電話又はwebから申し込み

詳細はこちらよりご確認ください。

<https://www.town.taki.mie.jp/life/soshiki/kikakuchosei/1/4229.html>（三重県多気町ホームページ）

<本資料に関するお問い合わせ先>

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

TEL:03-6311-7551 FAX:03-6311-8011

URL: <https://www.oriconsul.com/>

統括本部 伊藤・丸山・門司